

育成小 閉校式



「ふるさと」を斉唱する児童

育成小学校の沿革

明治	20	上相野・下相野両小学校を合併し育成尋常小学校創立
昭和	22	学制改革により育成小学校と改称
	32	校歌制定
	49	三方荒神鹿島獅子を復活
	56	文部大臣より学校給食優良校として表彰される
	62	現在の校舎および体育館落成。創立100周年
	63	水泳プール完成
平成	5	屋外運動場完成
	9	みどりの愛護功労者建設大臣賞受賞
	20	全日本学校歯科保健優良校として表彰される
	22	三方荒神鹿島獅子がつがるの宝に認定される
	30	日本PTA全国協議会会長表彰(団体)受賞
令和	2	完全複式学級(1・2年、3・4年、5・6年)になるとともに特別支援学級「みのり学級」開設

10月17日、今年度末で閉校する育成小学校で閉校記念式典が行われ、全校児童32人と保護者、地域住民ら約100人が、地域と共に歩んできた学校の歴史に思いを馳せました。

同校は、明治20年に育成尋常小学校として創立し、これまで3382人の卒業生を送り出しています。

閉校式では、児童らが映像と共に学校生活を振り返ったほか、同校が昭和49年から継承している郷土芸能「三方荒神鹿島獅子」を披



134年の歴史に幕
そして将来への一歩

露。全校児童で「ふるさと」を斉唱した後、児童を代表して佐藤玲久斗君(6年)が「閉校まであと5カ月。残された時間を大切にして、みんなと仲良くすごしていきます」と誓いました。

このほか式典では、三方荒神鹿島獅子の伝承に貢献した奈良トキさんや、歴代の校長・PTA会長、永年勤続職員らに感謝状が贈られました。

現在の1〜5年生は来年4月から、森田小や柏小、向陽小など希望する近隣の学校に通います。

相馬 準 一校長 (第32代校長)



節目ごとに発行された創立記念誌を紐解きますと、教育環境の整備のために、多くの方々が真摯に取り組んできたことが記されており、今まで続く育成小学校に対するPTAの方々の願いや、この地域の期待の大きさに胸が熱くなります。

皆さまの熱意と人情味あふれる相野の地のおかげで、子どもたちには「豊かな感性」と「人を思いやる心」が確実に育まれてきました。「人は環境によって育てられる」と申しますが、まさにこの地がその環境であったと実感しています。

児童の皆さん。閉校が決まり、寂しい気持ちもあったと思いますが「元気になかよく自分から」の合言葉の

もと、獅子舞をはじめとする様々な行事に思いを込め、全校が一丸となって取り組み、感動的な時を演出してくれました。すばらしかったです。本当にほこりに思います。

皆さんは、多くの方々がともに築いてきた伝統を受け継ぎ、この素晴らしい学校で過ごした子どもたちです。校歌にあるように「楽しく我ら歌はん祈りて我ら学ばん」の言葉を忘れずに、明るく楽しく、自分の可能性を信じ、友情を大切に、勉強や運動に力一杯励んでください。



戦後間もない昭和20年代の校舎。学校に残されているアルバムの中で、一番古い校舎の写真です。

閉校記念事業実行委員会

佐々木 和 真 委員長 (第37代PTA会長)



昨年9月に閉校が正式に決まりました。地域に子どもが少ないので「仕方ない」というのが率直な思い。子どもたちには、この学校で卒業して欲しかったというのが本音です。

でも、子どもたちの将来のため、より多くの選択肢を与えられる大きな学校で、たくさん仲間と一緒に学ぶことが、子どもたちのよりよい将来につながると思います。子どもたちが新しい学校に行ったら「良かったな」と思ってくれたらうれしいし、育成小で学んだことを生かして、元気に学校生活を送って欲しいと思います。

また、育成小を見守ってきてくれた地域の方々のご理解に感謝します。



現在の校舎



地域の誇りを 未来へつなぐ



10月18日、森田中で引き継ぎ式が行われました。
両校の児童、生徒合同による獅子舞が披露されたあと、育成小の太田光流さんから森田中の木村玲王さんに「三方荒神鹿島獅子保存会旗」が手渡されました。

三方荒神鹿島獅子

今から250年ほど前に、鹿島神社の前でお神楽をやったのが始まりと言われています。

舞の内容は、鹿と道案内の「おがしこ」（猿）が山の奥から降りてきて、川に橋を架けて渡り、森に上がって、お宮に参拝して、そこでお神楽をやるという構成です。

この貴重な郷土芸能は、戦争を境に50年もの間途絶えていましたが、昭和49年に育成小PTAや住民らが復活させ、昭和59年からは、踊りや囃子すべてを児童が担ってきました。

育成小の閉校後は、森田中が獅子舞実行委員会を組織して、この伝統を引き継ぎます。

伝承の特別功労者 奈良トキさん(87歳)

育成小の「三方荒神鹿島獅子」伝承に大きく貢献したとして、閉校式で福島市長から感謝状を贈られた奈良さん。

昭和52年4月～平成5年3月の16年間、用務員として同校に在職しながら児童に獅子舞を教え、離任後も定期的に学校などを訪れ、子どもたちに伝統を伝え続けています。そんな奈良さんにお話を伺いました。



【獅子との縁】 私が生まれた床舞地区（森田町）には、家を建てる前の「地固め」をする日に獅子を呼ぶという風習があり、子どもの頃からよく獅子を見てきました。育成小に赴任し、当時の平間ヌエ教頭先生が三方荒神鹿島獅子の伝承に取り組んでいることを知った時、獅子に縁があるなぁと感じたのを覚えています。

【飯より好きな踊り】 子どもたちに踊りや楽器を教えることは、とても楽しいことです。飯より踊りが好きな私は、今でも自分の年を忘れて夢中で踊ってしまっていますが、それを見た子どもたちが芸を覚え、後輩たちに受け継いでくれていることがとてもうれしいです。

【獅子への恩返し】 森田中が三方荒神鹿島獅子を継承してくれることになって本当に良かったです。獅子は私の人生を豊かにしてくれました。その恩返しのためにも、命ある限り、この郷土芸能を伝えていきたいと思えます。



森田中学校

獅子舞実行委員長

木村玲王さん

(3年生・おがしこ役)

引き継ぎ式では、みんなの緊張から囃子のリズムが早かったけど、合同練習のとおりみんなの息が合ったいい獅子舞を披露することができました。

グローバル化が進む現代で、このような伝統芸能が地域に残っていることがすばらしいと思います。

育成小のみんなが、よりよい獅子舞を目指して練習を重ね、伝統を守ってきたことを無駄にしないよう、この伝統芸能を地域の誇りとして、後輩たちに伝えていくことを約束します。



育成小学校

踊りリーダー

太田光流さん

(6年生・雄獅子役)

獅子舞には4年生の時から山持ち(笹を持つ役)で参加し、5年生から雄獅子役を務めてきました。

今年は新型コロナウイルスの影響で獅子舞を披露する機会が少なかったけど、引き継ぎ式では最後の踊りをやり切ることができてスッキリしました。

育成小の獅子舞はこれで最後になりますが、これからは森田中学校が引き継いでくれます。ぼくたちが引き継いできた獅子舞を、これからもどうぞよろしくお願いします。